

公津の杜小学校の取り組み

1 本校のあゆみ

本校は、平成25年度から、ユネスコスクールに認定されることを目指して、ユネスコスクール理論研修を積んできました。平成26年度、国連教育科学文化機関であるユネスコからユネスコスクールに認定されました。ユネスコスクールは、ユネスコの理想を実現する学校であることから、平成27年度から、児童自身が身近なものから課題を見付けて解決していこうとする意識をもてるように児童会活動の充実を図ってきました。

「未来を拓く心豊かでたくましい児童の育成」を学校教育目標に掲げ、具体的には周りの人・モノ・コト*に主体的にかかわろうとする子どもを育てたいと考えています。

- ・平成25年度 ユネスコスクール加盟認定を目指して申請書作成
教師のユネスコスクール理論研修開始
教師のESD委員会 活動開始
児童のユネスコ委員会 活動開始
- ・平成26年度 ユネスコスクール認定
ユネスコスクール加盟記念「ユネスコ集会」の開催
- ・平成27年度 児童のESD委員会 活動開始
ESDパスポートを活用したボランティア活動開始
第1回“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加
- ・平成28年度 ペットボトルキャップ回収を開始
第2回“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加
- ・平成29年度 第3回“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加
- ・平成30年度 第4回“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加
- ・令和元年度 第5回“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加



*モノ・コト…児童に日常生活の営み（事物・事象）に着目させ、自分と関わりを自覚した事物・事象を「モノ・コト」というカタカナ表記とすることとしています。

2 学校での取り組み

○“届けよう、服のチカラ”プロジェクトへの参加

ユニクロが行っている「難民へ衣服を送る活動」の主旨に賛同し、4年前からこの活動に取り組んでいます。ESD委員会とエコ委員会がユニクロの出張授業を受け、そこで「服のチカラ」を認識した児童は、衣服回収のために学校での呼びかけを開始しました。毎年、自主的に手紙を作って配付したり、回収ボックスを設置したりして、衣服の回収を行っています。学区にあるコミュニティセンターとも連携し、昨年度は、4225着の衣服を届けました。

○ペットボトルキャップ回収

毎週水曜日に、古紙や缶、ペットボトルの回収を行うリサイクルの日が設定されています。その中で、ペットボトルキャップの回収を行うことで、世界の子どもたちにワクチンを贈ることができることを知り、回収活動を続けています。



↑ “届けよう、服のチカラ” プロジェクト



↑ ももとせでの活動



↑ もりんぴあでの活動

3 ESD パスポートの取り組み

日本ユネスコ協会発行の「ESD パスポート」を活用し、ボランティア活動に取り組んでいます。主に5・6年生児童の希望者に配付し、実践の場については、以下の4か所に依頼しました。

○グループリビング「ももとせ」

学区にあるグループリビング「ももとせ」にて、ボランティア活動の提供を依頼しました。主な活動は、草取り、室内の掃除、イベント時の準備、片付け、受付などです。

○コミュニティセンター「もりんぴあ」

学校前のコミュニティセンター「もりんぴあ」にて、ボランティア活動の提供を依頼しました。主な活動は、草取り、大作台公園のごみ拾い、「こどものまち」「もりんぴあフェスティバル」「戦災復興」ボランティアスタッフなどです。

○グループホーム「きらら」

学区にあるグループホーム「きらら」にて、ボランティア活動の提供を依頼しました。主な活動は、利用者さんとの臨床美術体験、室内の掃除などです。

○成田ユネスコ協会との取り組み

・「民間ユネスコ運動の日」事業への参加

主な活動は、会場案内、ユネスコクイズ係です。

・ユネスコ世界寺子屋運動への参加

主な活動は、成田市内から集められた「書き損じハガキ」の仕分け作業です。

公津の杜小学校は創立14年目で、比較的新しい学校です。施設の面でも「絶対にこれがほしい」というものが少ない環境にあります。その恵まれた環境の中で、世界や地域の問題を自らの問題としてとらえさせることは少し難しいですが、とても大切なことだと考えます。そして、その課題解決のために自分たちにもできることがあることに気付き(Think globally, Act locally)、実行していきたいようにしていきたいです。